

2018年度第2四半期決算説明会における主な質疑応答の要旨

<日時>2018年11月1日 15:00～16:00

Q. 上期実績は業績予想よりも上振れており、また為替前提をここで円安方向に見直したにもかかわらず、年間の営業利益予想を修正していない。実質的には下期予想の下方修正であると思うが、その背景は？

A. 上期実績が予想よりも上振れしたのは、国内の固定費の計上が下期にずれ込んだ影響が大きい。

- ・また、ここで為替前提を円安方向に見直したが、年初予想時よりも原材料等（卸売事業における一部農水産物の仕入価格を含む）の負担が大きくなっており、連結で年間では年初予想通りの利益水準になると見込んでいる。

Q. 通期業績予想で、連結では原材料等で22億円の負担増となるようだが、その内容は？また、最近の大豆市況安の影響は？

A. 通期業績予想における原材料等の負担増の主なものは、卸売事業における一部農水産物の仕入価格の上昇や、原油価格の高騰によるユーティリティコスト・包装材料費・運送費の増加である。

- ・大豆市況安については、今のところ大きな影響はない。今後についても、為替の影響等が不透明であり、大きな影響は見込んでいない。

Q. 上期実績の国内の利益増加要因として「売上増減及び体質強化影響」で9億円とあるが、そのうち「体質強化影響」はどの程度か？

A. 2億円程度。

Q. 上期の「いつでも新鮮」シリーズの伸び率はどの程度か？

A. 2桁に若干届かない程度。

Q. 国内事業において、今後利益成長のドライバーとなるものは何か？

A. 食品では「発酵」をキーにした商品展開を行う。また、減塩商品にも注力する。

- ・飲料では、豆乳でも発酵技術などを活用した新商品の開発を進める。また、デルモンテ飲料は、配荷率の向上や小型容器への展開により、売上を伸ばしたいと考えている。

Q. ヨーグルトやチョコレートなどの他の健康カテゴリーの食品が以前は大きく伸びていたが、現在は踊り場となっている。同じく健康カテゴリーである豆乳の今後の伸びのポテンシャルについてどう考えているか？

A・国内の豆乳の継続飲用者はまだ3割程度であり、市場拡大のポテンシャルがあると考えている。将来的には現在の倍程度の市場規模にしたい。そのために、TVCM、SNS、キャンペーン、店頭販促などを行い、また料理などへの汎用性を訴求する。

Q. 北米しょうゆ事業の売上の伸び率が、第2四半期実績で+7.4%、下期予想も+7.5%と、成長が加速しているように見えるが、その背景は？また、最近アメリカで大手食品メーカーが値上げしているが、御社の価格是正に対する考え方は？

A・アメリカのしょうゆ事業では、小売用では8月から値上げを実施している。業務用・加工用の一部の商品でも、タイミングを見ながら下期中の値上げを考えている。値上げ幅はいずれも3~6%である。下期予想にはその影響をある程度織り込んでいる。

Q. 亜豪州のしょうゆ事業の伸び率が低い理由は？

A・高い成長を目指すエリアと安定成長を目指すエリアが混在しているためである。中国、アセアンでは継続的に2桁成長することを目指しており、オセアニア、台湾は2~4%程度の安定成長を目指している。

以上